

# 海の向こうから 第二十一号

## 帰国隊員

### インタビュー



インタビューの様子  
(右が尾杉さん)

今回、広島市在住で国際協力に興味を持つ大学生の仲松さんをお願いして、エクアドルに水泳教師として派遣された尾杉 武志さん（15年度3次隊）にイン

タビューをお願いしました。

注 以下尾杉 尾

仲松 仲

仲「エクアドルで水泳を教えてくださいということ。」

尾「ええ、そうですね。」

仲「水泳は経験が長かったのですか？」

尾「そうですね、私としましては・・・だいたい中学ぐらいからですね。」

仲「何か優勝経験はありましたか？」

尾「そうですね、小さい大会くらいなら・・・。」

仲「やっぱり水泳をただやっていただけでは行くのは気がひけたと思うんですけど、優勝経験があったから行くことと申ったってというのはありますか？」

か？」

尾「そういう考えで行けば厳しいものがありますよね。先輩に前日本記録保持者とかが以前参加されているんですよね。」

仲「それはすごいですね!」

尾「いろんな職種がありますよね。その中で、何で参加できるかなると水泳になっちゃったことですかね。」

仲「じゃあ、隊員としてどこかに

いきたいという思いがあって、何ができるかを選んで水泳にあたったというわけで、水泳ができるから行くことと思っただけではないんですね。」

尾「そうですね、そうゆう参加もアリだと思いますよ。」

仲「向こう（エクアドル）で食べなくなった日本食とかありますか？」

尾「首都に行ったら日本料理やさんとかあるんですよね。ですが簡単な刺身とかは食べまし

たし。天ぷらとかもありましたし。」

仲「案外余裕なんですね。」

尾「ええ、ですからねー、自分は本当に協力隊員なのかな?と思いましたが。かなり恵まれた環境だったと思いますよ。」

仲「どういった人が協力隊員に向いていると思いますか？」

尾「何も考えてない人ですね。」

仲「何も考えてない人ですか?」  
(笑)「

尾「変なポリシーを持ってない人ですね。」

仲「臨機応変とか、柔軟性があるってことですか?」

尾「自分のものさしで考えると相手の文化を受け入れにくいと思いますよ。ものさしを相手にあてて、そこから自分を測っていくと相手も分かって文化も分かってくると思いますけどね。」

仲「そうですね。私は自分の

ポリシーをしつかり持っている人のほうがどこでもやっていけると思ったんですけど……」。

尾「そうですねー、あんまり硬すぎると、人に合わせにくいということになるので、いいくらいにしなりをもっていている人がいいですね。固すぎたらボキッと折れちゃうし、やおかつたら（柔らかかったら）もともとぶにやっとなってしまいうし、でもそのあたりのさじ加減も、どこに行くかによって違ってくると思いますよ。」

仲「ボランティア活動をされていたわけですが、“自分は人の役に立っている”って実感はありましたか？」

尾「そうですねー、私の活動（水泳）って、結果が数字としてでますよね」

仲「あ、そうですねー！」

尾「子供たちだと、クロール、背

泳ぎ、最後バタフライと段階で現れますし、選手クラスだとそのまま数字として現れますよね。」

仲「それは（人の役にたっているという実感が）わかりやすいですね。」

尾「でも逆にシビアですよ、数字に出ちゃうんで。上がらなかつたら“何しにきたんだ”ってなっちゃいますからね。」

仲「最後に試験に合格した人にアドバイスをするとしたらなんと言いますか？」

尾「そうですね、現地の人としてかり溶け込んでくださいということですね。あんまり日本人とつるまずに。」

仲「日本人は結構いるんですか？」

尾「同じ日本人の隊員が住んでたりとかするんですけど、せっかく途上国ってところに行つて現地の人と交わりながら日本の技術を提供していくっていう

のが協力隊員なので、地域に根ざした活動をしてください。」

インタビューを終えて（仲松）

ただたどしいインタビューにも関わらず、親切に答えてくださった尾杉さん、ありがとうございました。尾杉さんは人生経験積んでいる雰囲気があるので、話に説得力のある人でした。

自分のポリシーがしつかりした人が協力隊員には向いていると思っていたのですが、尾杉さんの話を聞いてみると、なるほど柔軟性を持った人が向いているんだと考え直しました。でも柔軟性を持つって実はすごく難しい。それでも「楽しかった！」って言って帰ってくる人が多いんだから、協力隊員ってやっぱり人格的に優れた人が多いのかなと漠然と思いました。

協力隊の活動の成果は、人々の生活や語学力が向上したとか、漠然とした、目には見えないところ

にあるという印象だったので、活動の成果が数字でできる職業もあることに驚きました。あと、協力隊員にはやっぱり相当なスペシヤリストでその道に自信満々な人が率先して行くんだと思っていました。まず「協力隊に行きたい」という思いがあって、それからジャンル選びをするという志望動機もあったのが、すごく安心しました。かといってやっぱり「ちよつと得意」というだけでは難しいのでしようし、もし将来協力隊員で行くとしたら、何か「これは負けない！」というものを持って行きたいと思いました。

隊員未経験者の視点でのインタビューは新鮮だったと思います。隊員OBとして、活動の魅力を伝え、今後の協力隊事業発展に貢献したいものです。  
（天木健一）

# 18年度1次隊 派遣記念!

## 「アンケートから 見る広島県出身 の協力隊員」

6月末から広島県出身の二名が派遣されました。

古城門 奈津さん

ホンジュラス エイス対策

藤島 真美さん

ジャマイカ エイス対策

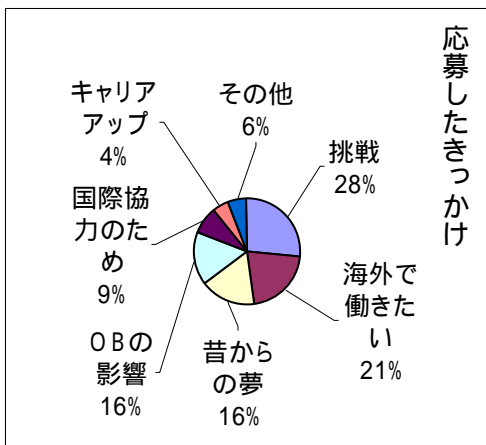
記念しまして、特集記事を作りました。

広島県OB会では、派遣前隊員にアンケートをさせてもらっています。12・3次隊、16・2次隊の赴任前アンケートのうち、事務局に残っているものを集計してみました。

コメントターは、今紙大活躍の松さんです。

### 応募したきっかけ

応募したきっかけ

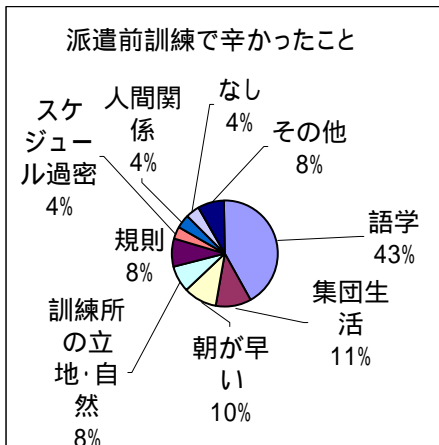


全体的には本来協力隊員のテーマである「国際協力のため」という応募動機が9%と意外と低かったのに驚きました。ボランティア目的というよりは、自分の成長のためといった風潮が強いようです。

派遣前訓練での辛かったことやっぱり「語学」と答えた人がダ

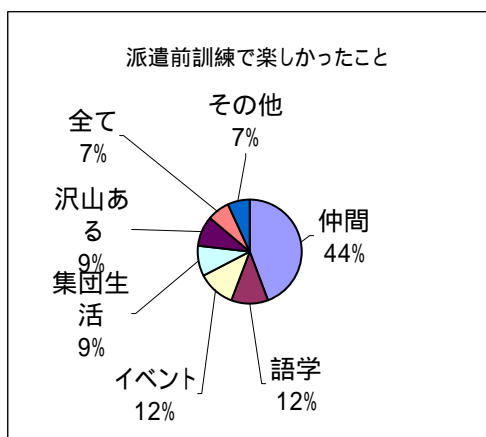
ントツでした。英語でのプレゼンや試験など、苦労した様子が伺えます。門限や、「朝が早い」など集団生活というのも苦しかったようです。

ようですね。また、全項目で43%の人々が「語学が辛い」と答えたのに対し、今回「語学が楽しかった」と答える人もそこそこいるのに驚きました。



なかには「恋の悩み」と気になる回答をした方もいました。派遣先に行つてからが本番だと思つていたのですが、派遣前の訓練先でもドラマがあるんですね。

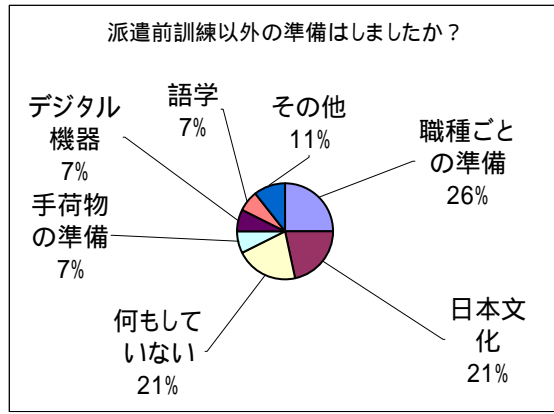
訓練で楽しかったこと  
全項目では「集団生活が辛かった」とのことでしたが、やはり仲間ができるのが一番の醍醐味の



訓練中であれ、週末には飲めるんですね。これまでもなんのつながりもなかった人々が同じ目的で集うわけですから、とても仲良くないれそうですね。

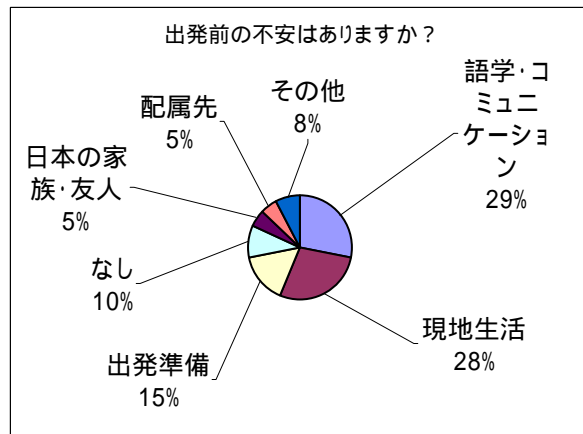
派遣前訓練以外での準備  
教える技術の準備はもちろん、日

[4] 本文化を伝えようと努力する人が多いのに感心しました。



けん玉習得や絵本の翻訳など一生懸命な人もいるのに対し、「何もしていない」と回答した方が21%もいらっしゃいました。何も準備しないで行くのって不安じゃないんでしょうか？  
その人たちは派遣先でうまくやっていけたんでしょうか、気になります。

**出発前の不安**  
何しろ言語も文化も気候もまったく違う外国で生活するわけですから、現地での生活に不安をもつ人が多いようですね。



一方、「不安はなし」と答えたあつぱれな方々も。  
現地の人とのコミュニケーションももちろんですが、派遣先で何をすればいいかというのは訓練期間中に具体的に想像できない

と思っていたので、それについてあまり不安に思う人が少ないのが意外でした。

**全体**

協力隊員も十人十色ですね。行った人の分だけドラマがあるんだなと想像できて楽しかったです。また、派遣前訓練や出発前の不安など、性格がとも反映されていました。

アンケート結果を見て、やっぱりアンケート結果には人とのコミュニケーションをすごく大事にする人間好きさんが多いみたいだなと感じました。

どうでしたか？私は集計グラフをお手伝いしましたが、普段面にならない応募動機の統計に、やはり人それぞれだなとうなずきました。OB会では、今後とも派遣前・後のアンケートを実施させていただきます。ご協力お願いします。

(大木健一)

**協力隊員による「ヒロシマ・ナガサキ原爆紹介展」が世界各国で開催されています！**

広島・長崎をカタカナで表記する時、それが原爆によってもたらされた悲しい歴史を意味する事は、既に皆さんご存知だと思えます。近年、派遣中隊員による「ヒロシマ・ナガサキを伝える活動」いわゆる「原爆展」が世界各地で開催されるようになっていきました（今年なんと、20カ国以上で開催予定！）

2004年、ニカラグアの広島県出身隊員4人が中心となって、初めて大規模な原爆展が開催され、その後、口コミで情報が広がり、その動きはどんどん大きくなっていきました。

開催場所（国によって様々です）

- ・配属先学校
- ・地元の集会所
- ・大使館などにあるイベントスペースなど

また、1度だけ開催されるケースもあれば、様々な場所で開催されるケースもあります。例えばチリでは、15人の隊員有志がそれぞれの任地で開催しました。

原爆展の内容（国によって様々です）

- ・広島平和記念資料館より提供されるポスター（30枚セット）の展示
- ・同じく提供されるビデオ・DVDの上映
- ・折り鶴作成
- ・その他  
音楽・ダンス・劇の発表  
ディスカッション  
日本文化紹介

## ホンジュラスから メッセージが届きました。

3月28日に無事、本国へ到着しまして、一ヶ月と少しの現地語学訓練を5月13日に終了しました。やっと手元に名刺の入った荷物が届き、メールしています。ただ今、配属先へ入り活動初め

参考情報

～今年開催する国・すでに開催された国～

下線のある国では、すでに開催されています

- ・ジンバブエ・ヨルダン・ルーマニア・ボリビア・エルサルバドル・コスタリカ・コロンビア・バングラデシュ・ケニア・タンザニア・ザンビア・ブルキナファソ・マダガスカル・ニカラグア・ホンジュラス・ブラジル・アルゼンチン・モンゴル・ウズベキスタン・ブータン・バヌアツ（順不同）

（磯村祐子）

みなさんの派遣国はありましたか？

て2週間になります。



首都隊員ということ、治安の悪いこの国でいろいろ制約がありますが、僕の活動は貧困地域での住居改善ですので、首都で他のNGOと打ち合わせをしては2週間に一度は、車で5～8時間の地域へ出向いて2泊という出張があるので、楽しくやっています。明日から早速、初めての出張で車で8時間離れた地域の山中にある住居を訪ねに山を登ってきます。こりゃあ、体力との勝負になりそうです。

到着して1ヶ月半という時期に、中米一デカいといわれるホンジュラス・カーニバル・セラ・セバというのがあり、日本チームとして和太鼓・エイサー踊りを披露してきました。



そのときの写真を送りたいと思います。和太鼓演奏は、数少ない男性隊員ということ、早速僕も登場しました。

17年度3次隊  
中米 ホンジュラス共和国  
建築隊員 木村 哲也

## メール配信会員の 増加キャンペーン

広島県OB会では、会員への情報連絡手段として、費用のからない電子メールを主なものとして運営しております。  
現在、広島県OB会の会員数は

約350人ですが、このうち、メール登録をされていない方が、約半数おられます。



一斉メールでは、OB会のイベント情報のほか、講演会案内やJICA、JOCOAなど関係団体からの情報も細かに発信しております。

ぜひ、この機会にメールアドレスの登録をおすすめします。

OB 会代表メールまで  
hiroshima.jocv\_obkai@yahoo.co.jp  
登録するメールアドレスをお知らせください。

## ポーランドで活躍中の 鎌倉さんからのお便り

平成17年度1次隊剣道隊員としてポーランドで活動しており

ます。初めて派遣国を聞いた時は驚きました。被爆地広島出身の自分、アウシュビッツ収容所をはじめ多くの戦争遺産の残るポーランドで日本の文化である武道を伝えるという使命を考えた時、鳥肌が立つ思いでした。これまで幾つかの施設を見学してきました。そこで驚いたことの1つにアウシュビッツ収容所が氷山の一角であり、似たような収容所が本当にたくさんあるということでした。まだまだ勉強不足を感じます。しっかりと勉強して帰りたいと思います。



JICA からの寄贈防具をつけているポーランド剣士

ポーランドには現在約500名(有段者30名)の剣士がいます。剣道を伝える上で一番の問題は

やはり文化の違いです。こちらにはこちらの文化があり、折り合いをつけながら剣道の本質を伝えることに悩みます。現在2人で活動にあたっております。



夏合宿での指導風景。

ポーランドは、2004年5月にEU加盟し、JICAの活動も撤退の方向で動いています。剣道隊員も私で最後です。残りの活動、全力であたりたいと思っております。

また最後になりましたが、現在の私の教え子カリリーナが原爆投

下記念日を広島で迎えています。青年海外協力協会中国支部の細川様初め多くの方には本当にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



川が凍り、スケートができる(今年の冬撮影)

2006年8月 鎌倉洋志

## 女剣士カリリーナさん 武者修行の旅

前「」でお便りいただきました、ポーランドで剣道指導中の鎌倉隊員の教え子カリリーナさんが、この

ほど武者修行のため来日しました。東京・仙台・愛媛・大阪、剣を片手に町から町へ稽古稽古の1ヶ月を過ごした後、8月6日は本人の希望によりどうしても広島で平和式典に参加したいとの事で、広島入りが決定しました。



カローリーナさん(右から3番目)後ろに小さく見えるのが原爆ドーム 2006.8.6 広島平和公園

広島では、羽熊さん、大木ファミリーの協力を得て、資料館、灯篭流しを見学、中でも資料館では、解説の英文を一次一句逃さずすべて読む勢いで、2時間以上かけて見学し

最後は、閉館時間となりやっと見学が終わりました。今まで何人も人を案内してきましたがこれほど熱心に見学してくれた人はいません。大変でしたが、広島に生まれた広島の子としてこれほどうれしい事はありませんでした。

翌日には福山に移動し鎌倉隊員の両親と感動の対面、お互いに言葉は通じなくても心は通じ合う瞬間を目にする事ができました。次の修行の地は鳥取、修行の旅は、あと一ヶ月の残っています。多くの経験をつんで元気にポーランドへ帰国される事を望みます。最後に剣道だけでなく日本のアニメ(ハヤオミヤザキの作品はすべて見ているつもりです)をこよなく愛するカローリーナさんより、羽熊さんに連れて行ってもらった漫画専門店とフィギアショップは忘れられない思い出の事、日本のアニメ文化おそるべしと思いました。  
すなぶきん PNG 細川

## 中国ブロッグ会議

### e\_n 萩山

7月22日(土)・23日(日)に岡山・萩山高原で、中国ブロッグ会議が開催されました。

高原の澄んだ空気、目にしみる大山の緑、おいしいジャージーミルクを満喫!! また岡山県OV会によるワークショップでは“協力隊体験をどう伝えるか”をみんなで考えました。

そして夜はキャンプファイヤー&飲み会!!



中国地方各県のOVが集まるこのイベント、来年は島根での開催です!! 来年島根で会いましょう。  
(\*) (ニ) (木南圭映子)

## ホームページのリニューアルについて

OB会のみならず、突然ですがOB会のホームページがあることをご存知ですか?

Googleなどの検索エンジンで、“青年海外協力隊広島県OB会”と入力すると、1番上にヒットするほど超有名?なページです。しかし! アクセスされた方はお気づきでしょうが、事務局の人手不足により、更新が滞っています。

最近、このホームページの運用を再開しようという声が事務局内で起きています。

そこで、リニューアルするに伴い、会員のみなさまの意見を広く取り入れたく、会報のスペースを借りてアイデア・ご意見を募集することにいたしました。

現在、ホームページの内容とし

て次のものを予定しています。

- ・ 一般向けにOB会を紹介するためのページ
- ・ 年度の役員を紹介するページ
- ・ 予定するイベントをお知らせするページ
- ・ 終わったイベントの報告をするページ
- ・ 会員間で情報交換できる掲示板
- ・ 会員が作成しているホームページの紹介およびリンク



以上ですが、他にも、ホームページ上で会員登録・変更がしたい、一斉メールの過去メールがホームページ上で見たいといった要望が多ければ、できるだけ、ご希望に添えるように頑張りたいと思います。ただし、ホームページ作成者の技量により難しい場合があるのでご了承ください。

内容だけでなく、デザイン・カラーリングに関することなども結構ですので、ぜひご意見いただけるとう嬉しいです。

kennyjapon@gmail.com

(事務局長大木宛て)

## 2006フードフェスタの助っ人募集

10月14(土)・15(日)日開催

場所：広島城周辺

広島県OB会のブースとして、タイカレー、エンパナーダ等の出店を予定しています。年間行事のうち最大規模のイベントとなります。来場者が多いため、当日の調理・会計担当の人数が不足しますので、お手伝いいただける方は、事務局まで連絡ください。

hiroshima\_jocv\_obkai@yahoo.co.jp

開催が近づきましたら、一斉メールにて再度案内いたします。

## 今後の行事について

9月26日 18・1次隊後期壮行会

10月14・15日 ひろしまフードフェスティバル参加

10月、募集説明会

募集説明会会場

10月11日 1830～

広島大学大学院国際協力研

究課 (DEC)

10月15日 1830～

まちづくり市民交流プラザ

10月21日 1830～

福山市民参画センター

10月24日 1830～

まちづくり市民交流プラザ

11月 帰国隊員報告会

11月19日 国際交流の日参加

12月 壮行会 18年度2次隊

12月 一次選考 立会

12月 派遣中隊員支援

12月 会報発行

1月 お帰りなさい会

3月 年次総会

3月 ボランティア家族連絡会

3月 壮行会 18年度3次隊

皆さんの参加・ご協力をお願いします。

## 記事やニュースを募集しています。

事務局では、会報に掲載する記事を募集しています。

- ・ 派遣中隊員からの活動紹介
- ・ OB隊員のお店、NGO機関などの紹介

- ・ 出版本の紹介
  - ・ 任国への再訪問された方からの旅行記
  - ・ などなど、なんでも結構です。
- 事務局までお寄せください
- hiroshima\_jocv\_obkai@yahoo.co.jp

## 編集後記

いやあ、ようやく発行までこぎつけました。今回、担当者の多忙につき、編集のまとめを代役として任せましたが、定番で載せていた記事ネタがぶれていくなか、特集記事づくりに頑張りました。これまでとは、大分、雰囲気が変わったと思います。一番苦労したのは、編集に集まった4名全員が会報作成未経験というなか、手探り状態だったことです。後任あつて引き継ぎなし”って感じは、現地活動中もOB会も一緒だななんて(笑)。その分自由度が高く楽しんで作成できました。会報発行に協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます。

今後とも”海の向こうから”をよろしく願います。

(2006夏号編集班長 大木)